

令和元年度 墨田区立第四吾孺小学校 経営計画書

校長名 清水 雅也

学 校 目 標	◇健康で心豊かな子 ◇力を合わせてつとめをやりとげる子	◇よく考え進んで実行する子 ◇礼儀正しい子
目指す学校像	◇学ぶ力が伸びる学校 ◇連携する学校 ◇安全・安心な学校	
目指す子供像	◇元気でいきいきと学び、運動する子 ◇地域の中で育ち、社会に貢献する子 ◇四吾小の一員として、互いの良さを認め合い、高め合う子	
目指す教師像	◇自ら学び、自己研鑽する教師 ◇教育公務員としての自覚をもち、保護者・地域社会の期待にこたえる教師 ◇「褒める・認める・きちんと叱る」ことができる、あたたかく、厳しく、情熱的な教師	

項 目	取組の視点	取組指標	成果指標
各教科指導等	確かな学力を育てるための、分かりやすい授業の実施等	◇意欲的に問題か帰結型学習に取り組む授業・単元づくりの推進。 ◇ICT 機器を活用した授業の展開。 ◇日常授業における言語活動の充実。 ◇朝学習・放課後補習等の充実。 ◇読書指導の充実。	◇理科を中心に、研究授業3回、講演会1回を設定。授業力・単元構成力の向上に取り組む。 ◇全授業の70%をめやすにICT機器を活用し、児童の興味関心・理解を高める。 ◇全授業の80%をめやすに、多様な言語活動を取り入れた授業を展開する。 ◇国語算数を中心に、基礎力定着をめあてとした朝学習を意図的計画的に実施(週3回)する。SST等を活用して、個別補習や宿題チェックを行う。 →児童アンケート「よくわかる」を80%以上。 ◇学校図書館=図書館司書との連携し、ブックトークや調べ学習の充実を語る。同時に地域図書館からの団体貸し出しも定期的に活用する。
	特別な支援を必要とする子供に対しての、組織的な支援等	◇連絡会議の定期開催と組織的な対応。 ◇通常学級と特別支援学級(たんぼ学級)との連携を通じたインクルーシブ教育の充実。 ◇関係諸機関との連絡・活用。	◇特別支援教育コーディネーター・SCを中心に、要支援児の実態を把握し(月1回、ケース会議実施)、適切な指導を即時行う。 ◇交流授業・活動を意図的計画的に実施し、社会性・障がい理解等の伸長を図る。→体育的・学芸的行事、特活等を中心に毎月実施。 ◇特支委員会で困難と判断されたケースは、躊躇することなく専門機関へ対応を依頼する。
	社会的自立に向けた進路指導・キャリア教育・相談活動等	◇全教育活動を通して、意図的計画的なキャリア教育を実施する。	◇地域人材・機関を活用した体験学習を全学年で1階以上実施する。

	<p>教員の指導力・授業力を高めるための、組織的な取組等</p>	<p>◇校内研究・特色ある学校づくりの充実。</p> <p>◇管理職による授業観察の実施。</p>	<p>◇理科を中心に、問題解決型の指導法を全教員に身につけさせる。→授業観察を通して、達成状況を把握する。</p> <p>◇管理職による定期的な授業観察を年3回以上（不定期にも実施）実施する。</p>
家庭・地域連携	<p>教育方針や日常の教育活動の様子などを伝える取組等</p>	<p>◇学校便り、学校HP、各学年通信等を通して、教育活動の実際を伝える。</p>	<p>◇学校便りの内容の充実を図る（長・副が巻頭言分担＝長8回・副3回／11回、各学年・分掌担当からの情報など）。</p> <p>◇毎週1回、学級便りを発行。</p> <p>◇月1回以上のHP更新。</p>
	<p>保護者や地域の理解や協力を得た教育活動の推進等</p>	<p>◇地域人材を活用した体験学習を実施し、地域の一員としての自覚を高める。</p> <p>◇各種教育活動への保護者参加数（ボランティア等）を増やすことにより、学校教育への関心を高めるとともに、家庭教育の重要性を再認識させる。</p>	<p>◇近隣商店街での職業体験を実施する（3年生・年1回）。</p> <p>◇【各種ボランティア参加数の向上】相撲大会、運動会、持久走大会、図書ボランティア、あいさつ運動等への参加率120%増を目指す。</p>
	<p>幼保小中連携の推進</p>	<p>◇教員連携の充実＝顔と名前がわかる連携・交流活動。</p> <p>◇児童連携の充実。</p>	<p>◇近隣小学校と校内研究会への相互訪問を3回程度実施。</p> <p>◇近隣小中学校で、年2回の授業公開を実施。</p> <p>◇幼保園児との交流の実現（学校案内、読み聞かせ体験など）。</p> <p>◇中学校での体験授業を2回以上（部活体験含む）実施。</p>
学校の管理運営	<p>経営方針に基づいた、組織的な教育活動・学校運営等</p>	<p>◇新分掌組織への円滑な移行。</p> <p>◇週案簿の全員提出</p> <p>◇主幹主任の能力開発。</p>	<p>◇4月より、一人一人の役割とOJT体制が明確な組織へ、移行する。</p> <p>◇毎週、長・副2名で週案簿を確認し、教育活動の適切な実施を図る。</p> <p>◇管理職と主幹主任の会議を週1回実施。学校運営・経営への参画意識を高める。</p>
	<p>子供の実態に合わせた教育目標設定及び評価等</p>	<p>◇教育目標の柔軟な設定変更。</p>	<p>◇児童の実態、保護者や地域のニーズに応じ、教育目標を設定する。</p> <p>→内部・外部評価を総合的に勘案し、毎年度末に次年度目標を再設定する。</p>
	<p>教育環境・設備等の整備状況等</p>	<p>◇施設安全確認の徹底。</p> <p>◇施設の有効利用の促進。</p>	<p>◇月1回の施設安全点検の徹底（管理職が自らの目で最終確認を行う）。</p> <p>◇現時点で未整備の教室・施設の整理整頓と有効活用を年度末までに完了する。</p> <p>◇修理・改修が必要な施設については、管理職がその状況や理由を役所担当者に直接説明し、理解を得る。</p>
	<p>職員の健康を守る労働環境づくり</p>	<p>◇教職員の健康管理の徹底。</p>	<p>◇メンタルチェックの結果を分析し早期発見に努め、必要に応じて早期受診を勧める。</p> <p>◇出勤時刻の記録を分析させ、超過勤務月40時間以内実現への意識を高める。</p>

生活指導等	問題行動の予防や解決に向けた組織的な取組等	<p>◇全教員が共通認識のもと、問題行動に未然防止・解決にあたる。</p> <p>◇いじめ・不登校対策の充実。</p>	<p>◇週1回の生活指導朝会、年3回の児童の詳細な実態を協議会を通して、全教員が全児童の顔・氏名・実態を把握することにより、共通認識のもとで指導にあたる。</p> <p>◇いじめ=いつでも起こりうることであるという意識のもと、未然防止・早期解決を徹底する。→児童の記録・報告を毎日行う。</p> <p>◇不登校=定期的に連絡を取り、現状把握に努める。必要に応じて外部機関へ対応を依頼する。</p> <p>◇いずれも月1回の対策会議を実施し、情報の共有化を図り、組織的に対応する。</p>
	基本的な生活・社会習慣、人間関係作りのための心の教育等	<p>◇校長のリーダーシップのもと、「墨田区でイチバン・カッコイイ小学生になる作戦」を展開する。</p> <p>◇生活指導の徹底。</p> <p>◇道徳教育の充実を図る。</p>	<p>◇グー（最後まで粘り抜く）、チョキ（いつもニコニコ、いじめは許さない）、パー（パッーあかるく元気にあいさつ）を合い言葉に、あいさつ運動や児童による校内巡回等を実施し、良好な人間関係を構築する。</p> <p>◇学校生活のきまりを「四吾スタンダード」として設定し、児童・保護者に周知徹底する。→リーフレット作成・配布、学校・学年便りで徹底要請。</p> <p>◇道徳教科書の全単元の指導を計画的に完全実施する。</p>
	安全を確保するための取組等	<p>◇健康・安全な生活環境づくりの推進。</p> <p>◇食育・アレルギー対策の充実。</p> <p>◇人権教育の充実。</p> <p>◇防災教育の充実。</p>	<p>◇月1回の保健指導・安全指導の実施。</p> <p>◇体力調査結果を分析し、実態に応じた体力向上策を立案、実施する。</p> <p>◇長期休業あけに生活リズム調査を1週間実施し、早期に生活規律の乱れを正す。</p> <p>◇外部機関を活用した情報モラル教室を年1回以上開催する。</p> <p>家庭とも連携し、家庭ルールの徹底を図る。</p> <p>◇アレルギー対象児童は、年1回の保護者面談を実施。組織的な対応の徹底を確認。</p> <p>◇食育の充実を図り、残さい率10%以下を目標とする。</p> <p>◇人権プログラムに基づいた意図的計画的な指導（日常的な指導と道徳の時間での指導）を行う。</p> <p>◇戦災・震災の教訓をふまえた防災教室を年1回実施する。</p>